

令和5年度 第1回 学術研究プラットフォーム運営・連携本部会議 議事要旨

日 時： 令和5年10月24日 10:00-12:00

場 所： ハイブリッド開催（学術総合センター20階講義室/Web会議システム）

議 事：

1. 議事要旨確認

黒橋本部長より、資料2に基づき説明があり、内容に意見があれば会議終了までにご意見いただくこととし了承された。

2. 令和5年度 整備推進委員会報告

合田委員より、資料3に基づき、整備推進委員会について、NIIの活動内容説明や委員の所属機関における活動事例、今回は金沢大学や立命館大学から紹介があった旨説明があった。

3. ネットワーク事業・運営委員会報告

漆谷委員より、資料4に基づきネットワーク事業及び運営委員会について報告があり、関連して以下の議論があった。

- ・ 国際回線の切り替えは状況に応じて柔軟に行えるのか。
 - 毎回調達を行っている。
 - 回線の契約期間は何年か。
 - 3年毎に契約している。
 - 北海道でIXに接続できないか。モバイルSINETについても東京を経由せずに接続できると良い。
 - 予算とトラフィックの状況に応じて検討したい。
- ・ ラックの共同調達の負担金額が高い。
 - 今回の共同調達ではそれほど安くならなかった。
 - 大学内にラックを設置し、複数機関で共同利用してはどうか。

4. DX・クラウド推進事業・運営委員会報告

合田委員より、資料5に基づき、DX・クラウド推進事業及び運営委員会について報告があり、関連して以下の議論があった。

- ・ SINETStreamについて講習や研修は今年度実施したか。
 - オープンフォーラムでの説明やWEBサイトでチュートリアルコンテンツ

の整備を行っている。

- ・ クラウド活用調査はアンケートだけで分かるのか。
 - アンケートから状況を評価し、レポートを返している。
 - どの大学でも可能か。
 - 期間中に申し込めば参加できる。

5. セキュリティ事業・運営委員会報告

南委員より、資料 6 に基づきセキュリティ事業及び運営委員会について報告があった。

6. 情報セキュリティポリシー推進事業・推進委員会報告

中村委員より、資料 7 に基づき情報セキュリティポリシー推進事業及び推進委員会について報告があり、関連して以下の議論があった。

- ・ 生成 AI を意識して「高等教育機関の情報セキュリティ対策のためのサンプル規程集（以下規程集）」を改定する予定はあるか。
 - 機密情報の取り扱いは以前からサンプル規程集に含まれている。自動翻訳等簡単に使えるものについては注意喚起を検討したい。大学ごとに生成 AI の活用については温度差があるため、どこを基準にするか議論が必要である。
- ・ 情報セキュリティ教育用教材は独自に作成するのか。
 - 独自に作成し、提供してから 3 年程経っている。新しいトピックについて意見があれば参考にしたい。

7. 研究データ基盤運営委員会活動報告

込山准教授より、資料 8 に基づき、研究データ基盤運営委員会及び作業部会について報告があり、関連して以下の議論があった。

- ・ GakuNin RDM だけでなく、JAIRO Cloud との接続の仕方や現状について共有してほしい。また、学認に参加できない企業や海外の機関の対応に関する議論について暫定的な答えを共有してほしい。各機関のストレージと GakuNin RDM のつなぎ方の説明方法や、ストレスフリーなつなぎ方を検討してほしい。
 - 管理基盤・公開基盤連携については開発を進めている。認証については民間や海外との連携について議論を加速させたいと考えている。ストレージについてはどのような製品まで対応するか検討していきたい。
- ・ スーパーコンピュータとの連携についてどのように考えているか。

- 認証の話と併せてフレームワークの設計等を急ぎ進めている。
- 逆に利用者に対して必要なものを要求しても良いのではないか。今後ビッグデータの取り扱いも関係すると思われる。
- 最近ではスーパーコンピュータをクラウドのように利用しようとする議論もある

8. 学術認証推進事業・運営委員会報告

坂根学術認証推進室長より、資料9に基づき、学術認証推進事業及び運営委員会について報告があり、関連して以下の議論があった。

- ・ 学認に参加していない機関をどのように認証するかが一番の課題である。次世代認証連携で対応していきたい。
 - GakuNin RDMを拡大する上でも次世代認証連携が重要である。
- ・ Orthrosの試行運用は順調に進んでいるか。
 - 中規模実験を通して次世代認証連携で求められているものに関する評価を始める予定である。
- ・ OpenIdPからOrthrosに全面移行するのか。またスケジュールはどうなっているか。
 - 10月1日から移行を始めている。今年度末にはOpenIdPの新規登録を終了する予定。
 - 正式運用はいつからか。
 - 次世代で要求されている全ての機能が実装されている状況ではないが、正式運用は既に開始している。
- ・ 現在のOrthrosはOpenIdPの代わりにはなっているが、まだ他のフレームワークとの連携はできないという理解で良いか。
 - その通り。
 - 学認に参加していない人には当面の間Orthrosで認証できることを案内してはどうか。
 - 個人をどのように識別し、どの程度担保するかを決める必要がある。Orthrosのポリシーと運用規定の文書化については策定を進めている。
 - 既に認証できている人に手間がかからないようにしてほしい。
 - なるべくそのようにしたい。

9. 2023年度学術情報基盤オープンフォーラム活動報告

鷹野学術基盤課長より、資料10に基づき、学術情報基盤オープンフォーラム活動に

ついて報告があった。

10. その他

本会議に関連して以下の意見があった。

- ・ SINET や研究データ基盤において東北大学と企業の連携を進めたい。
- ・ 研究データエコシステムについて、分かりやすい解説があると良い。
- ・ 大学の DX におけるグループ管理の重要性を感じている。
- ・ RDM 人材育成作業部会は誰が参加しているのか。
 - 主査は筑波大学の高久准教授で、図書館の職員や図書館情報系の先生方が多い。
- ・ 国立天文台ではデータの長期保管が課題となっている。アーカイブデータ活用のためにユーザーインターフェースにも注力している。
- ・ サンプル規程集はどの程度機関に利用されているのか。
 - 詳細は把握していないが、各大学に従来からあるポリシーを修正する形で利用している機関が多いと感じている。一方でサンプル規程集をそのまま使用している大学もあるためガイドラインが必要ではないかと考えている。
 - 各大学が公開しているポリシーを見ればサンプル規程集をどのくらい参考に行っているか分かるため、調査を行っても良いのではないかと考えている。
- ・ 大学共同利用機関としてはサンプル規程集を早期に公開してほしい。また認証のグループ管理について参考にしたい。本会議資料は学内で共有して良いか。
 - 資料の共有については差し支えない。
- ・ 学認について、誰を対象として認証を行うのか根本的に考える必要があるのではないかと考えている。

次回開催日は、後日事務局から開催候補日について案内する旨連絡があった。

以上